

平成 23 年度(1月末現在)におけるヒヤリハット活動状況について

平成 23 年度(1月末現在)の「ヒヤリハット」「きがかかり」の発生状況について報告する。
(参考として、「トラブル」「不具合」の発生状況も合わせて報告する。)

状態	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
異常	区分Ⅰ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0
	区分Ⅱ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0			1
	区分Ⅲ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0
	区分Ⅳ	0	1	0	0	1	0	0	0	1	1			4
	不具合事象	6	5	8	5	5	7	6	6	7	5			60
	不具合未済	4	10	7	6	8	2	6	12	2	4			61
	ヒヤリハット	1	0	1	2	1	0	1	0	2	1			9
	きがかかり(体験)	19	13	15	15	11	16	12	14	18	9			142
注意	きがかかり(仮想)	76	87	61	57	49	38	50	51	62	44			575

状態	区分	20年5月～3月	21年度	22年度	23年度(1月迄)	合計
異常	区分Ⅰ	0	0	0	0	0
	区分Ⅱ	0	0	0	1	1
	区分Ⅲ	2	0	0	0	0
	区分Ⅳ	4	5	15	4	28
	不具合事象	—	(12/17～)45	90	60	195
	不具合事象未済	—	(12/17～)88	119	61	268
	ヒヤリハット	22	8	18	9	57
	きがかかり(体験)	106	122	213	142	583
注意	きがかかり(仮想)	185	428	818	575	2006

・平成23年度のヒヤリハット事例

事例	搬送台車とぶつかりそうになった
どこで	小型トランス解体エリア 解体品搬出コンベア前
どうしていた時	定期点検中に、解体処理品を入れたカゴを解体品搬出コンベアで基幹物流装置に搬送していたとき
あらまし	解体品搬出コンベア前に作業者がいたため、搬送台車を緊急停止させた。衝突してケガをしたかもしれない。
原因	当日は小型トランス解体エリアでとクレーン工事(担当A)と搬送台車修理(担当B)の2つの作業があったため、作業開始前に担当者間で打合せを行っていた。クレーン工事終了後に担当Aは工事作業者に別の作業をさせていたが、その作業を担当Bに連絡していなかったため、修理完了後に作業者がいることを知らずに搬送台車を動かしたところ、搬送台車と衝突しそうになった。
教訓・対策	作業の追加や変更がある場合は、新たな作業の開始前に同一エリアの担当者間で打合せを行うこととした。また、搬送ラインで作業するときは必ず搬送台車の操作禁止札の札掛けの徹底を図った。

事例	掃除中に停電発生
どこで	受入検査室、コンデンサライン前分電盤
どうしていた時	検査室で掃除機を用いて掃除していたとき
あらまし	掃除機2台を使用したところ、ブレーカーが落ちたため、検査室の担当者から電気補修担当に連絡しブレーカー復旧を依頼。電気補修担当者がブレーカーを上げてから10～20秒後に上流側の電源が落ちてしまった。停電により機器の損傷やケガをすることが考えられる。
原因	最初にブレーカーを投入したとき、検査室の掃除機1台及び扇風機1台のスイッチが入ったままとなっていたため、突入電流が流れた。これらの機器のスイッチを切って再立上げたところ約10分で停電は復旧した。
教訓・対策	ブレーカーが落ちた際は、現場責任者は関連する電動器具類の電源を切り、配線をコンセントから抜くこととした。また、電気補修担当はブレーカー復旧前に現場責任者から電源及び機器の使用状況を再確認してから復旧させることとした。

以上